

# 北海道子どもの生活実態調査（乳幼児調査）結果報告書【概要版】

## I. 調査の概要

### 1 目的

子どもの貧困対策を効果的に推進するため、世帯の経済状況と子どもの生活環境や幼稚園・保育所等、家庭での過ごし方などとの関係を具体的に把握することを目的としています。

### 2 調査対象及び調査方法

- ・概ね2歳及び5歳の子どもの保護者
- ・平成29年4月～10月に無記名のアンケート方式で実施

### 3 実施地域

(実施地域の区分と市町村)

道 央					道 南	
空知	石狩	後志	胆振	日高	渡島	檜山
岩見沢市 三笠市 滝川市 深川市	江別市 千歳市	蘭越町 余市町 岩内町	登別市 苫小牧市	浦河町 新ひだか町	北斗市 八雲町	江差町

道 北			オホーツク	十勝	釧路・根室	
上川	留萌	宗谷			釧路	根室
旭川市 名寄市 富良野市	留萌市	稚内市	網走市 北見市 遠軽町	帯広市 清水町 幕別町	釧路市	根室市 中標津町

### 4 調査票の回収状況

調査対象	配付件数 (件)	有効回答数 (件)	有効回答票率 (%)
2歳	2,942	1,474	50.1
5歳	3,072	2,253	73.3
全体	6,014	3,727	62.0

### 5 留意事項

- ・本調査において「年収」とは、就労収入（税込）のほか児童手当、児童扶養手当、生活保護費、年金等を含む1年間の家族全員の収入（税込）としています。
- ・本調査における家族形態区分については、「両親世帯」は両親と子のみからなる世帯、「母子世帯」は母と子のみからなる世帯、「父子世帯」は父と子のみからなる世帯としています。
- ・結果数値（%）は小数第2位を四捨五入して表示しているため、内数の計が合計に一致しない場合があります。
- ・集計上、未記入等不明分を除いた回収数を記載しています。
- ・単数回答の設問において複数回答があったものについては、無回答に含めています。

## II. 調査結果

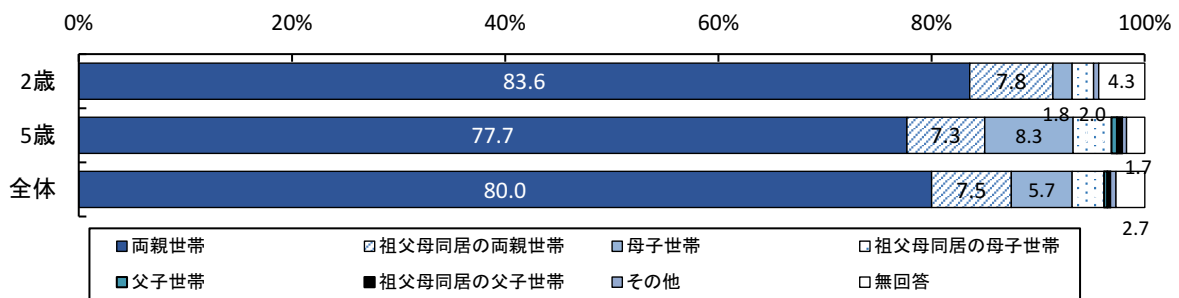
### 1 調査世帯の状況

#### (1) 世帯の状況

##### ① 家族形態

- 「両親世帯」は80.0%、「祖父母同居の両親世帯」は7.5%、「母子世帯」は5.7%、「祖父母同居の母子世帯」は3.0%などとなっている。
- 2歳児では祖父母同居を含む「母子世帯」が3.8%であるのに対し、5歳児については11.9%と8.1ポイント高くなっている。

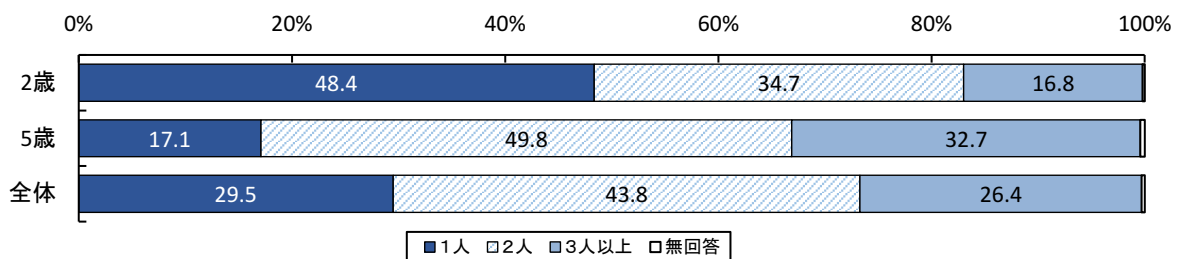
図 1-1



##### ② 生計が同じ家族のうち子どもの人数

- 2歳児では「1人」が最も多く48.4%、次いで「2人」が34.7%、5歳児では「2人」が最も高く49.8%、次いで「3人」が32.7%となっている。

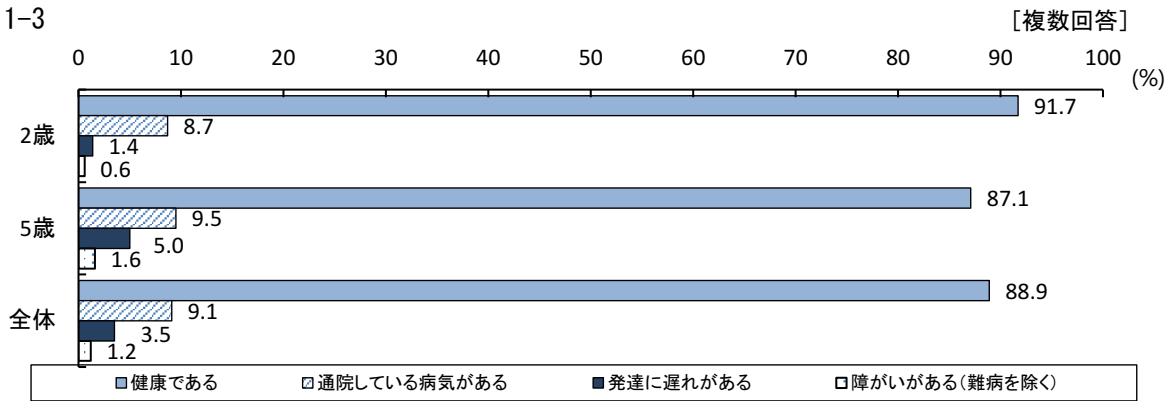
図 1-2



##### ③ 子どもの健康・発達の状況

- 全体では「健康である」が88.9%、「通院している病気がある」が9.1%、「発達に遅れがある」が3.5%などとなっている。
- 2歳児に比べ5歳児は、「健康である」との回答が4.6%低く、87.1%となっており、また、「発達に遅れがある」との回答は3.6%高く、5.0%となっている。

図 1-3



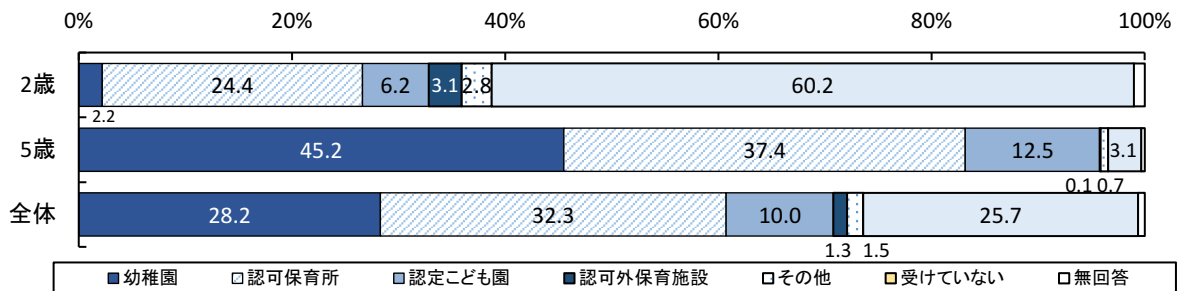
## 2 子どもの教育

### (1) 家庭以外での教育について

#### ① 幼児教育施設等の利用状況

- 2歳児では、認可保育所に通園している子どもが24.4% (360世帯)、幼児教育を受けていない子どもは60.2% (888世帯)となっている。

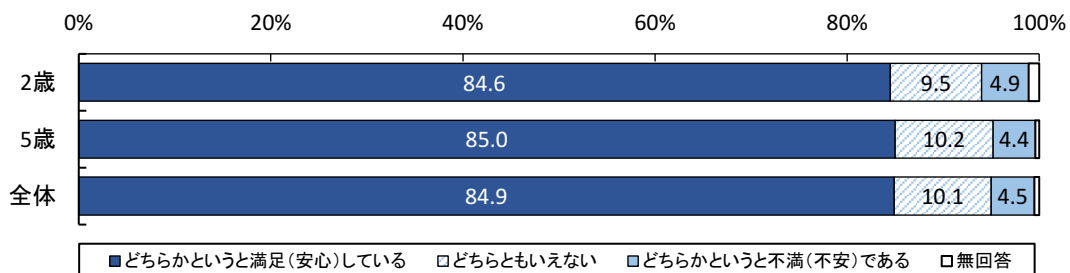
図 2-1



#### ② 幼児教育施設等の印象

- 全体では「どちらかという満足(安心)している」が84.9%となっている。

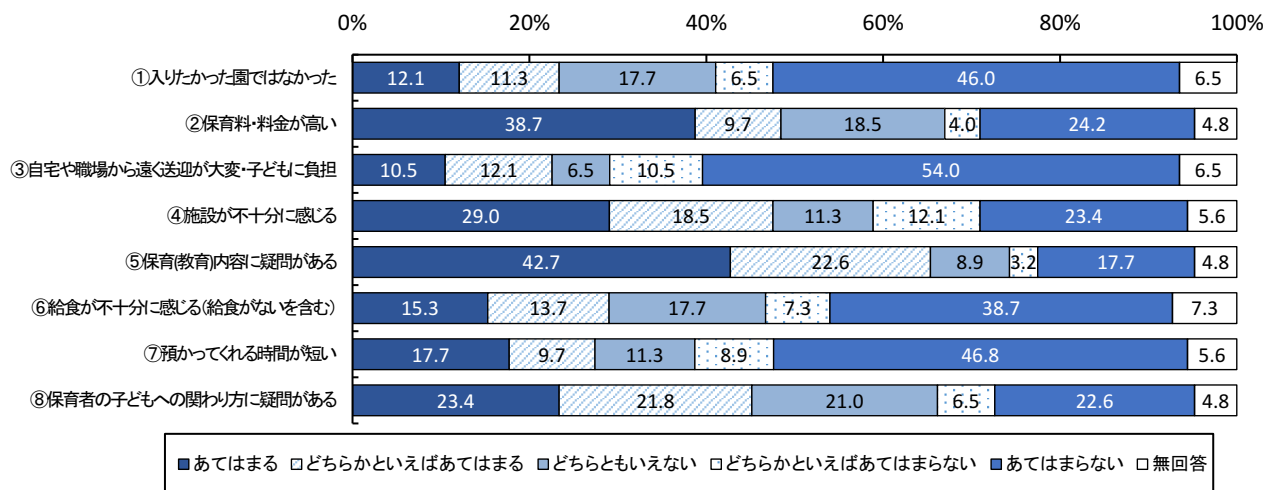
図 2-2



### ③ 幼児教育施設等の印象で不満（不安）と回答した理由

- 「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」を合わせると、全体では「保育（教育）内容に疑問」が 65.3%、「保育料・料金が高い」が 48.4%、「施設が不十分に感じる」が 47.5%となっており、特に 5 歳児では「保育（教育）内容に疑問」が 68.8%と高くなっている。

図 2-3



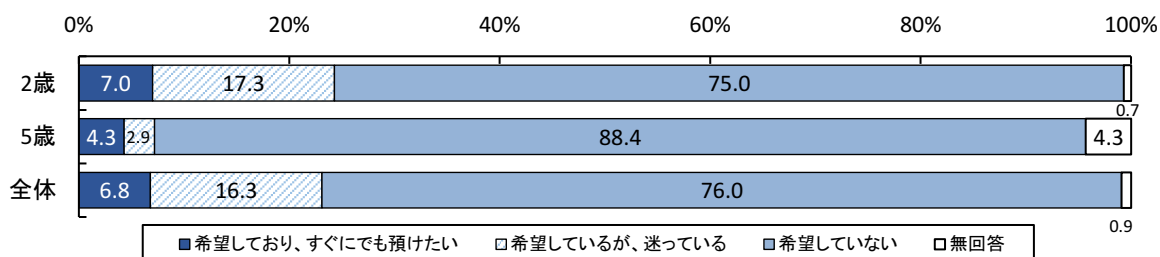
### ④ 認可保育所等について

（対象は家庭以外に幼児教育を受けていないと回答した 888 世帯）

#### (ア) 希望の有無

- 認可保育所等の利用希望の有無については、2 歳児では「希望しており、すぐにも預けたい」が 7.0%、「希望しているが迷っている」が 17.3%となっている。

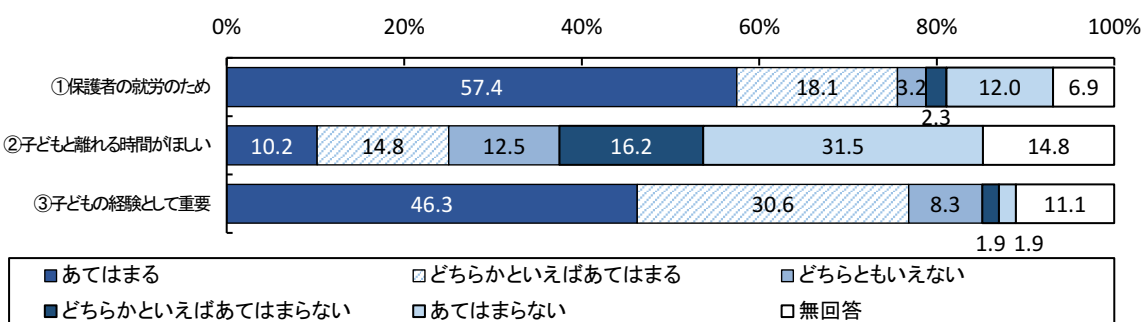
図 2-4



#### (イ) 希望している理由

- 2 歳児で「子どもの経験として重要」が「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を合わせると 76.9%と高く、次いで「保護者の就労のため」が 75.5%となっている。

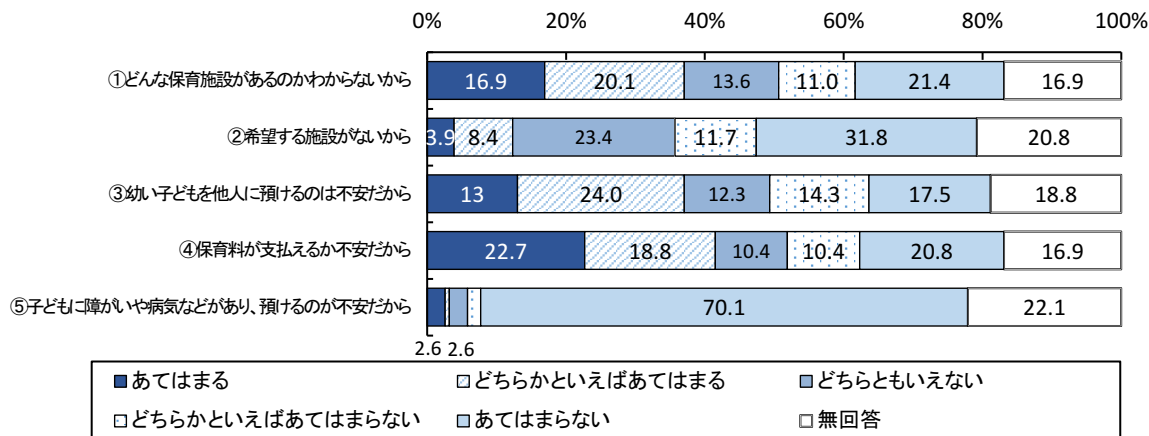
図 2-5



(ウ) 希望しているが迷っている理由

- 2歳児で「④保育料が支払えるか不安だから」が「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を合わせ 41.5%、「①どんな保育施設があるのかわからないから」、「③幼い子どもを他人に預けるのは不安だから」がともに 37.0%となっている。

図 2-6



### 3 生活の状況

#### (1) 保護者（世帯）への生活支援について

##### ① 子育てに関する制度やサービスの利用状況

- 全体では「サービスを利用したことがある・利用している」とする回答は、「児童館」が最も高く 42.3%、次いで「地域子育て支援拠点事業（子育てサロン、子育て支援センターなど）」37.5%となっている。
- サービスを利用したことがない理由では、「利用する必要がなかった・制度の対象外だった」がいずれのサービスにおいても最も高いが、「利用のしかたがわからなかった」や「制度やサービスについて全く知らなかった」とする回答の割合も比較的高い傾向。
- 児童館や地域子育て支援拠点事業において母子世帯の利用が両親世帯よりも低い。
- 年収階層別では、児童館及び地域子育て支援拠点事業において、100万円以上400万円未満の世帯で利用割合が比較的低くなっている。

図 3-1

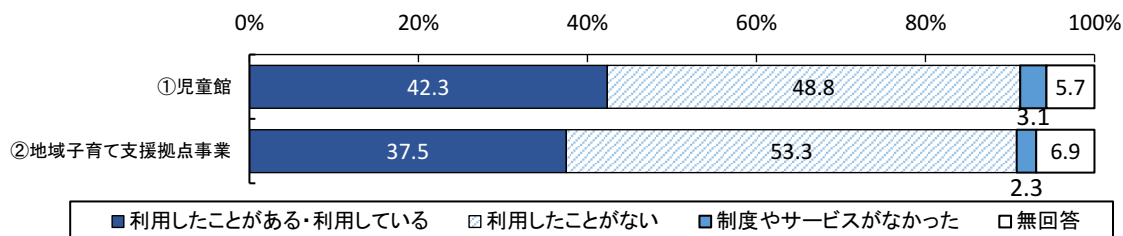


図 3-2 サービスを利用したことがない理由

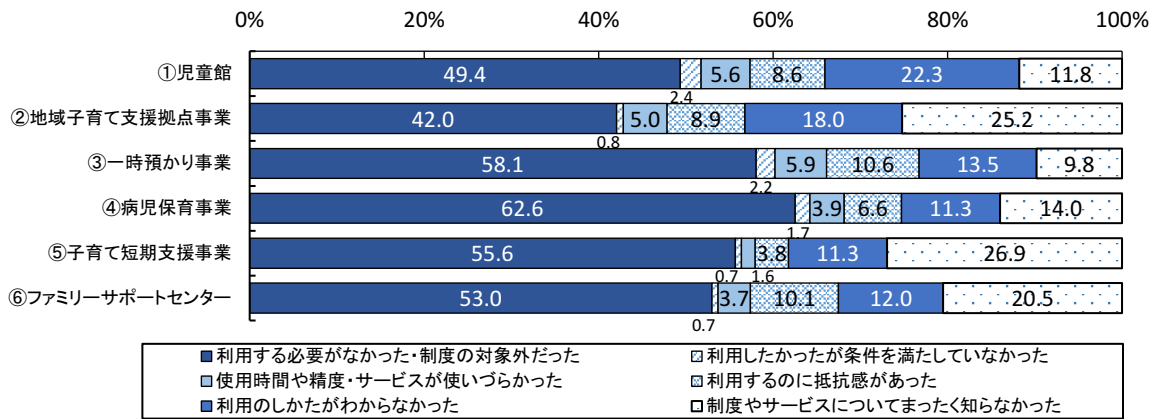


図 3-3 利用したことがある（児童館・地域子育て支援拠点）家族形態別

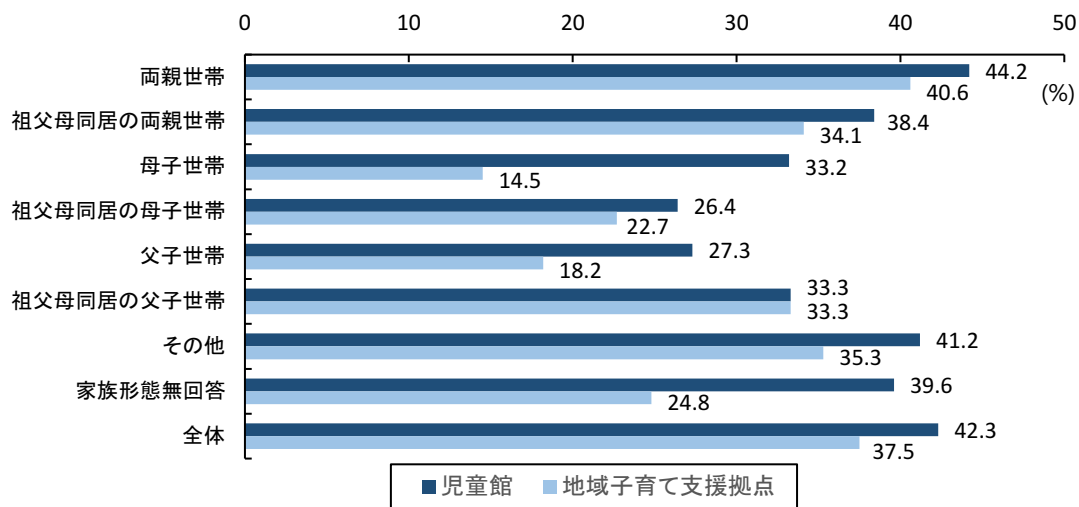
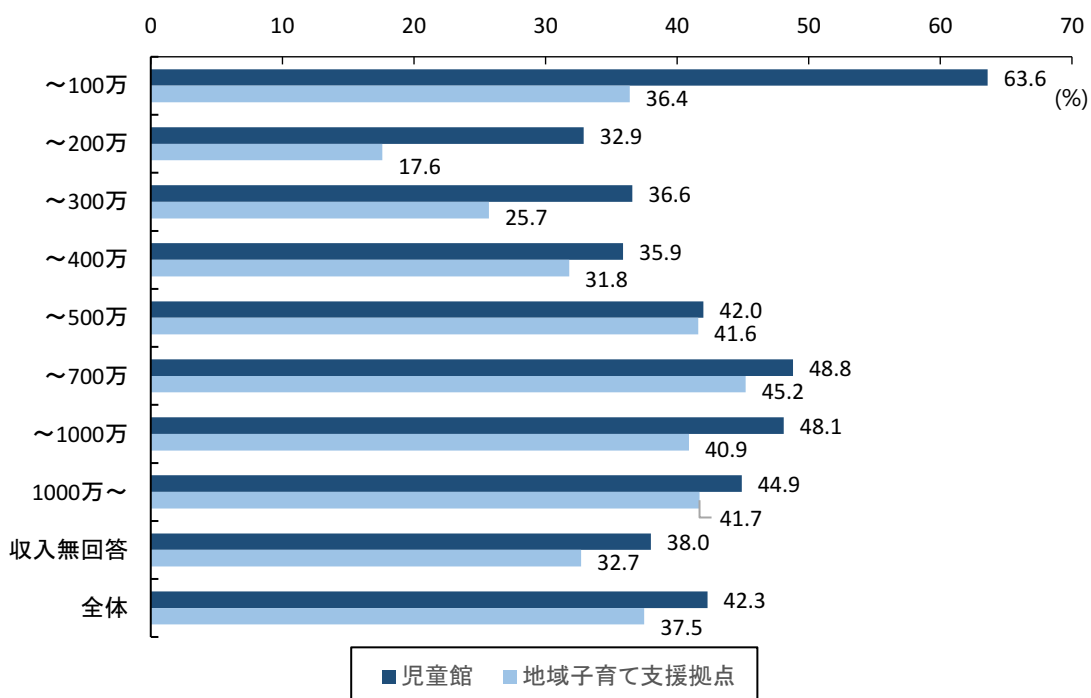


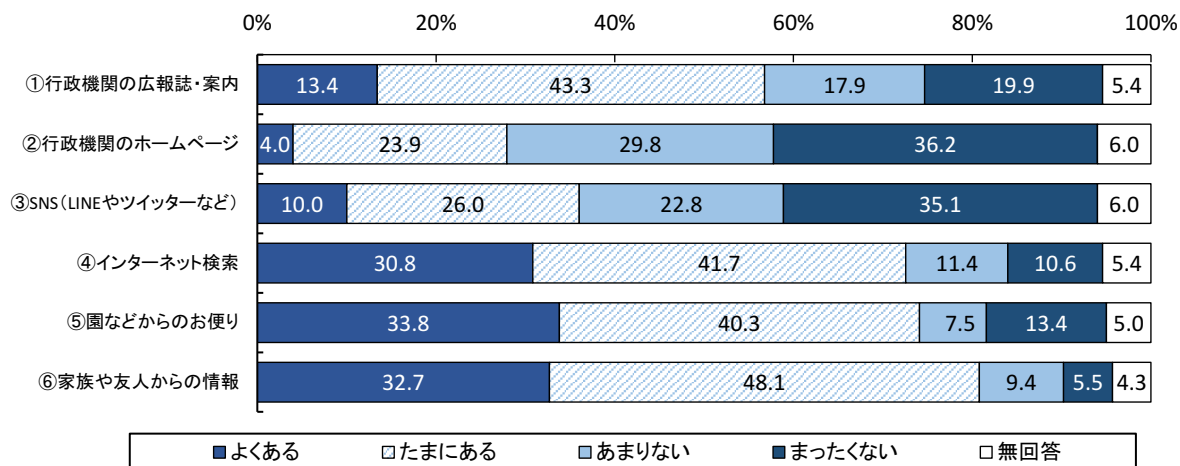
図 3-4 利用したことがある（児童館・地域子育て支援拠点）年収階層別



## ② 子どもに関する施策の情報を得るための手段

- 「よくある」「たまにある」を合わせた数字では、高い順に「家族や友人からの情報」が80.8%、「園などからのお便り」が74.1%、「インターネット検索」が72.5%となっている。
- 父子世帯や母子世帯で、「行政機関の広報誌・案内」「行政機関のホームページ」などにおいて、「まったくない」「あまりない」とする割合が高い。
- 年収が低くなるほど、「行政機関の広報誌・案内」や「行政機関のホームページ」について、「まったくない」と回答する割合が高くなっています。

図 3-5

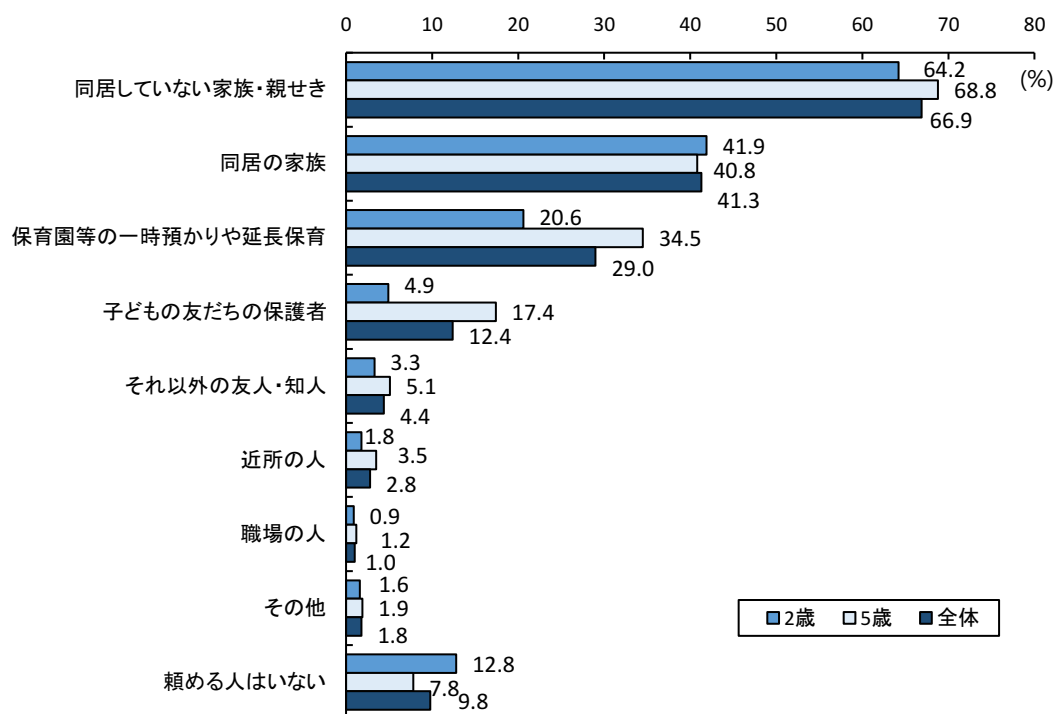


## ③ 用事があるとき等の子どもを半日程度預かってくれる人

- 全体では預け先として「同居していない家族・親せき」が最も高く66.9%となっており、次いで「同居の家族」41.3%、「保育園等の一時預かりや延長保育」29.0%となっている。
- 5歳児では、「保育園等の一時預かりや延長保育」が34.5%と高くなっている。

図 3-6

[複数回答]

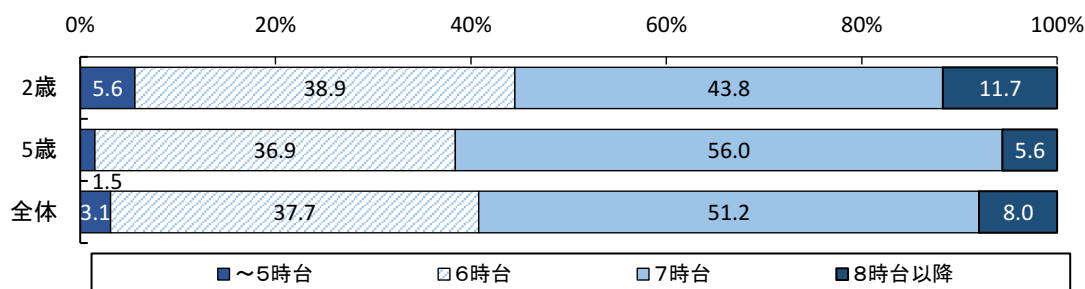


## (2) 子どもの生活状況について

### ① 子どもの起床時間

- 子どもの起床時間については、「7時台」が最も高く、2歳児では43.8%、5歳児では56.0%。
- 父子家庭（祖父母同居を含む）を除き、祖父母と同居している世帯は、単身世帯に比べ「6時台」の割合が高い。

図 3-7



### ② 子どもの就寝時間

- 「21時台」が最も高く、2歳児では、50.7%、5歳児では、56.5%。
- 母子世帯や祖父母同居の母子世帯で「22時台以降」の割合がそれぞれ33.2%、28.4%と他の家族形態に比べ高い。

図 3-8

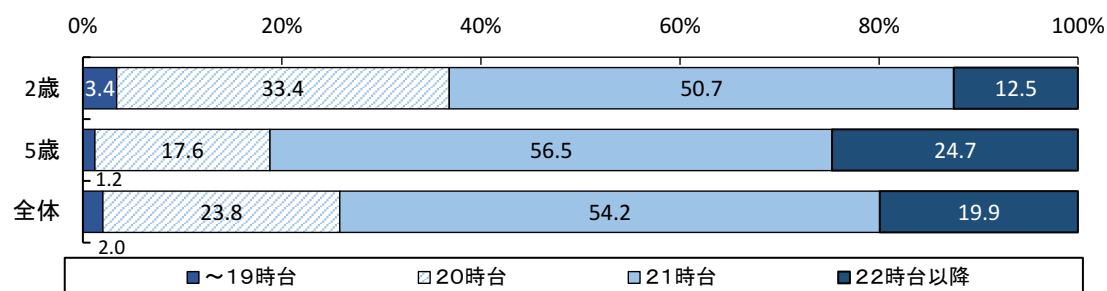
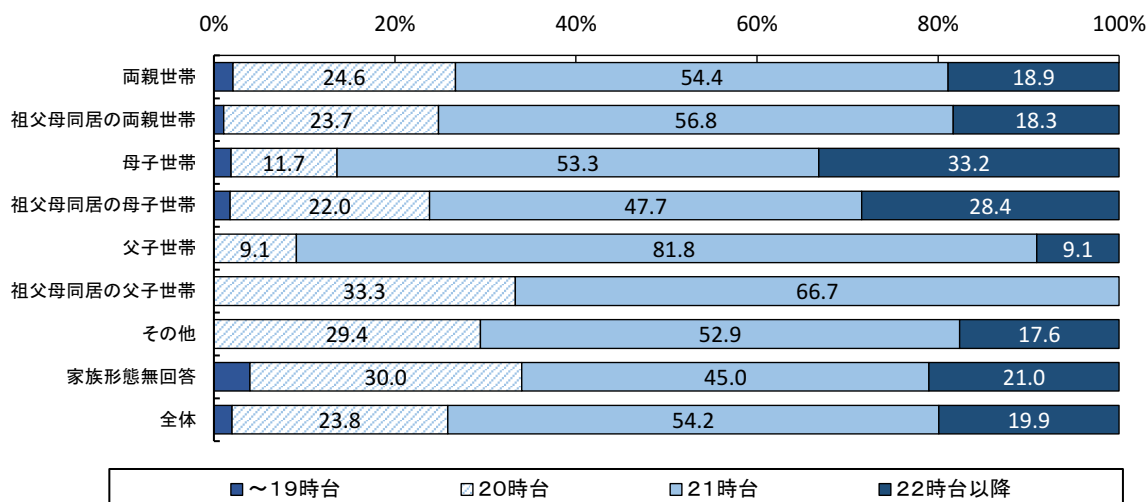


図 3-9





### (3) その他

#### ① 子育てひろばやサロンなど親子があつまれる場について

- 自宅の近所における親子があつまれる場の有無についての認知については、全体では 70.1% が「ある」と回答しており、その割合は 2 歳児が高い。
- 両親世帯に比べ母子及び父子世帯で「ない」との回答割合が高くなっており、また、年収階層別では、100 万円以上 300 万円未満の階層で「ない」との回答が 30%を超えている。

図 3-10

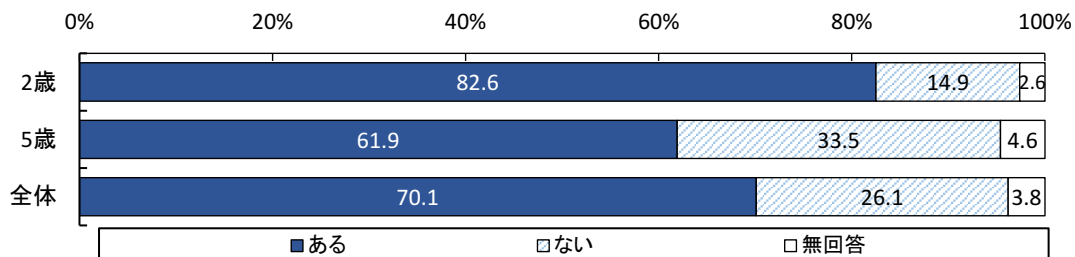


図 3-11

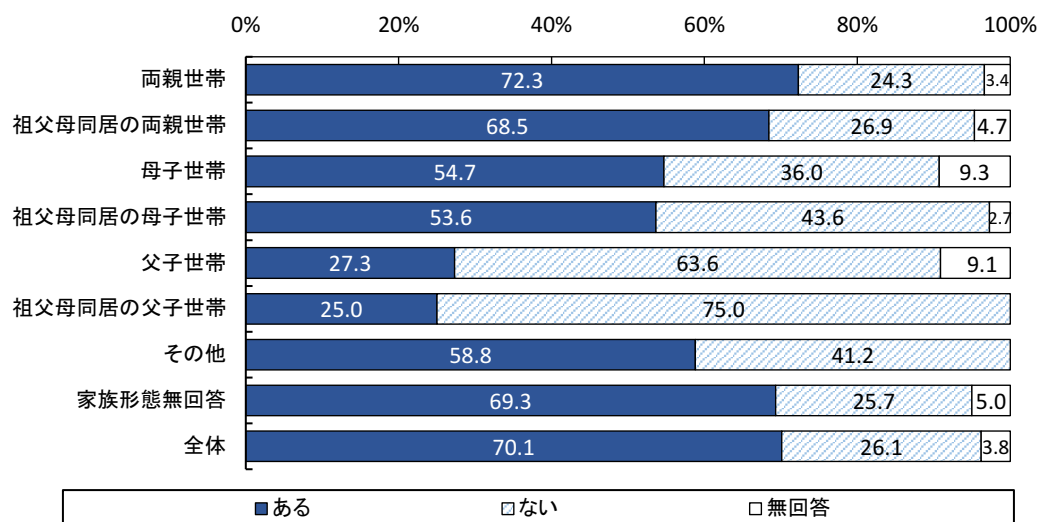
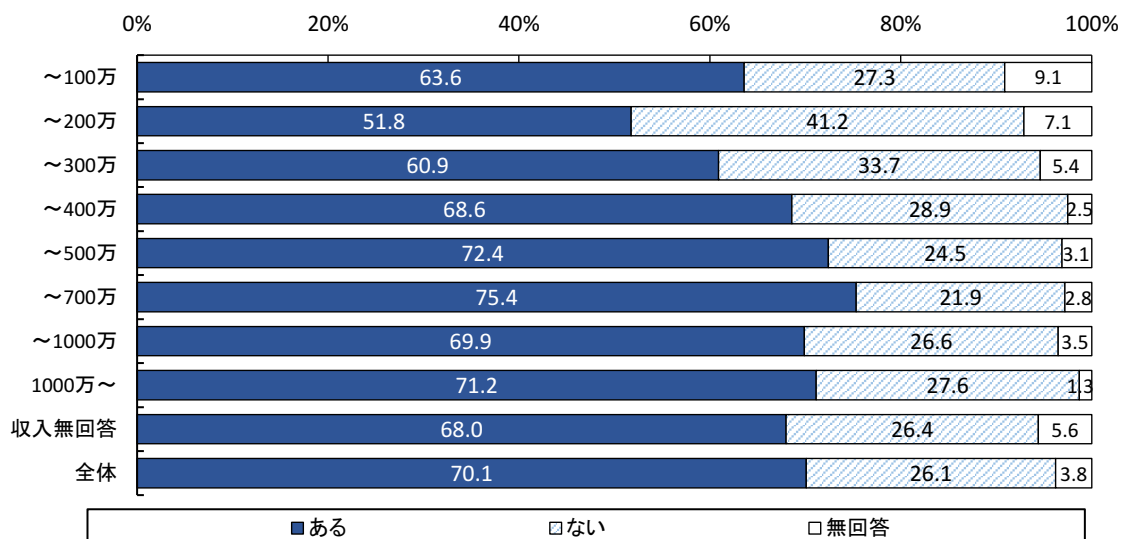


図 3-12



## ② 近所付き合い等

- 立ち話をする人の相手については、全体では「他の子どもの親」が最も高く、72.0%となっている。
- 「そのような人はいない」は2歳児で21.0%と5歳児の5.7%に比べ高い。
- 立ち話の相手では「他の子どもの親」と回答する割合は、年収が下がるほど低い。

図 3-13 立ち話をするよう付き合いのある人の有無 [複数回答]

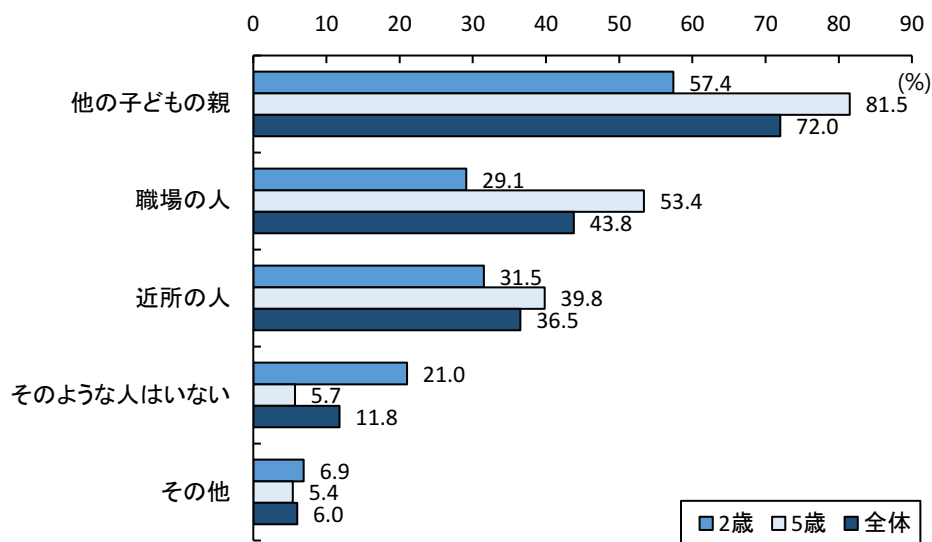
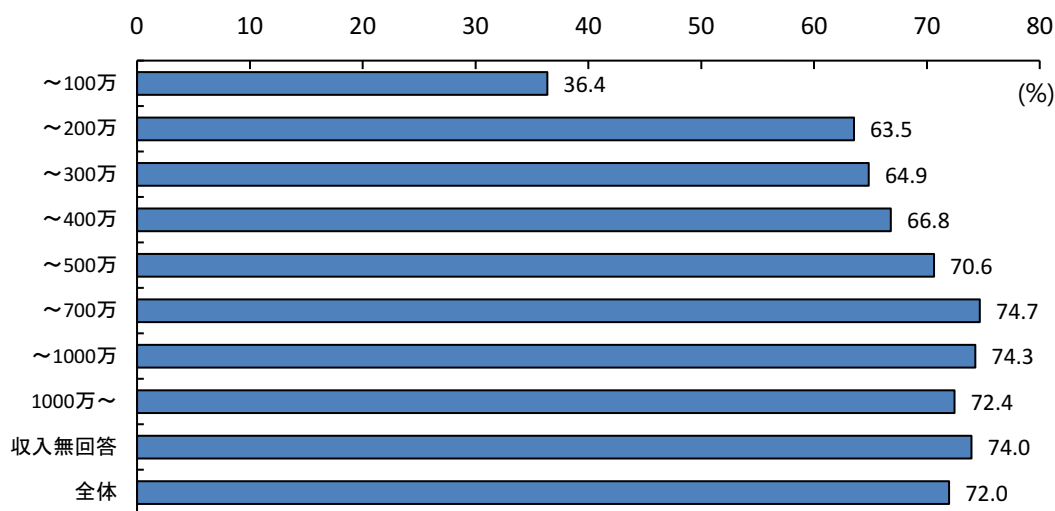


図 3-14 相手を「他の子どもの親」とした回答 年収階層別



## 4 保護者の就労状況

### (1) 母親の就労状況について

#### ① 母親の働き方

- 全体では、高い順に「働いていない」が36.4%、「パート・アルバイト」が32.6%、「正規の職員・従業員」が20.0%。
- 2歳児では「働いていない」が54.4%、5歳児では「パート・アルバイト」が42.3%と高い。
- 両親世帯では、高い順に「働いていない」が39.3%、「パート・アルバイト」が31.8%、「正規の職員・従業員」が19.4%。
- 母子世帯では、高い順に「パート・アルバイト」が46.3%、「正規の職員・従業員」が26.6%、「働いていない」が12.1%。
- 子どもの生活実態調査（小2～高2）結果と合わせてみると、「働いていない」は2歳児で50%を超えているが、5歳児では「働いていない」は半減、「パート・アルバイト」が増加し、小学2年生とほぼ同様の割合となり、学年が上がるほど、「働いていない」の割合は減少傾向となっている。

図 4-1

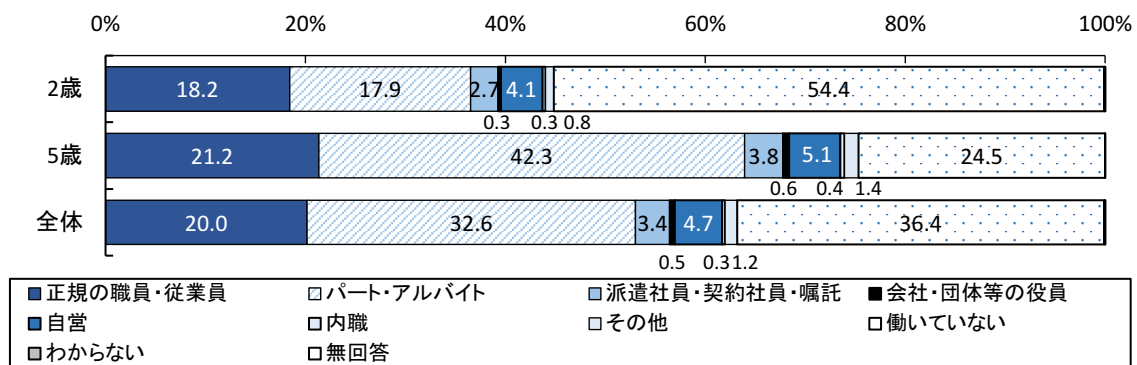
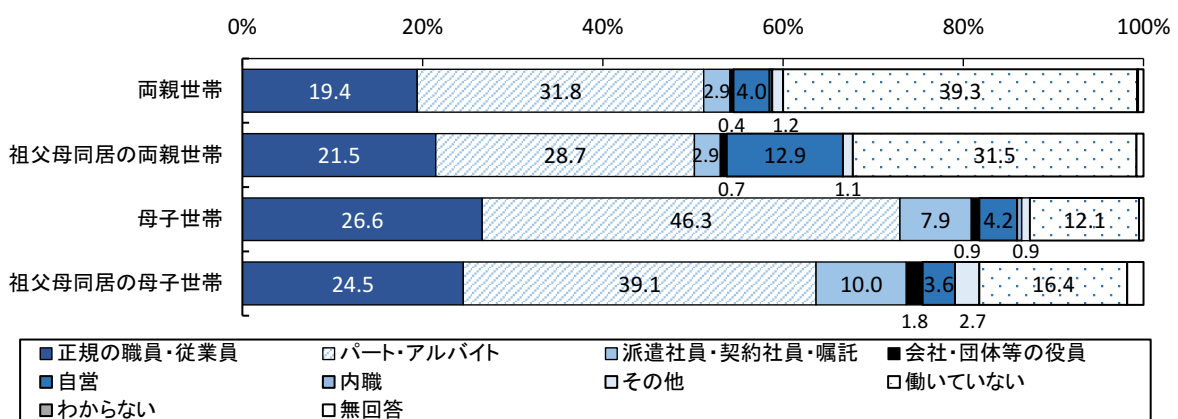


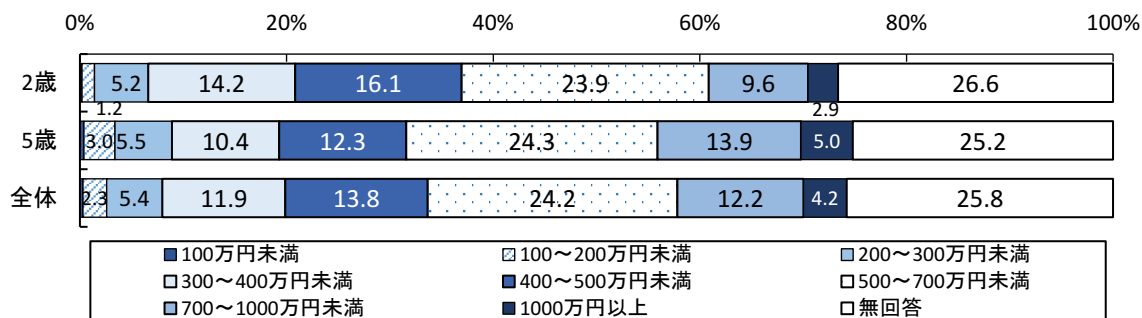
図 4-2



## ② 家族の年収について

- 全体では「500万円以上700万円未満」が24.2%と最も高く、次いで「400万円以上500万円未満」が13.8%。
- 「子どもの生活実態調査（小2～高2）」結果と同様に、両親世帯は「500万円以上700万円未満」が、母子世帯では、「200万円以上300万円未満」が最も多い分布となっており、母子世帯については年収無回答を除いた割合では、年収300万円未満は7割を超えている。

図 4-3



## 5 経済状況

### (1) 家計の状況

#### ① 普段の家計について最も近いもの

- 全体では「赤字」が20.0%、「どちらでもなくぎりぎり」が41.3%。
- 5歳児では「黒字」と回答した割合が34.2%と2歳児より4.9ポイント低く、「どちらでもなくぎりぎり」「赤字」との回答は2歳児より高くなっている。
- 「子どもの生活実態調査（小2～高2）」結果と合わせてみると、子どもの年齢が上がるに伴い「黒字」と回答する割合は減少する傾向にある。

図 5-1

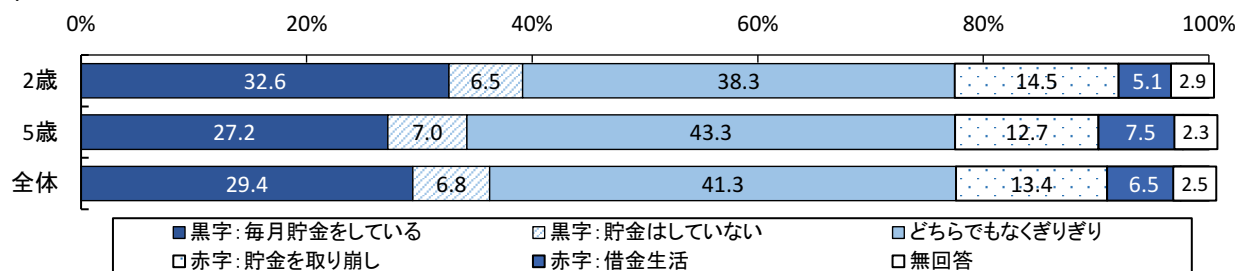
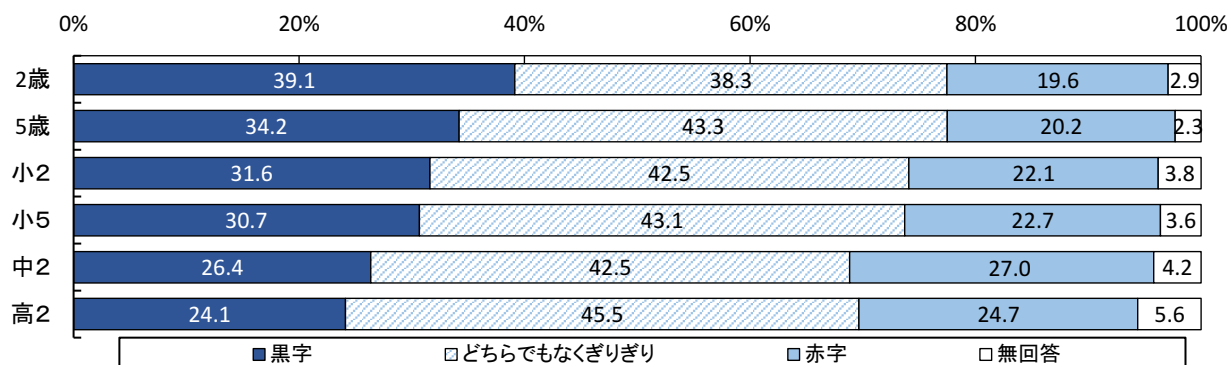


図 5-2



## (2) 医療機関の受診について

### ① 病院等を受診した方が良かったと思ったが受診させなかった経験

- 子どもを受診させなかった経験は、全体では「あった」が15.6%となっており、2歳児が9.9%、5歳児が19.3%。子どもの生活実態調査結果（小学2年～高校2年生）と比較し、2歳児の割合は半分程度となっている。
- 母子世帯において「あった」の割合が26.2%と両親世帯に比べ高い。

図 5-3

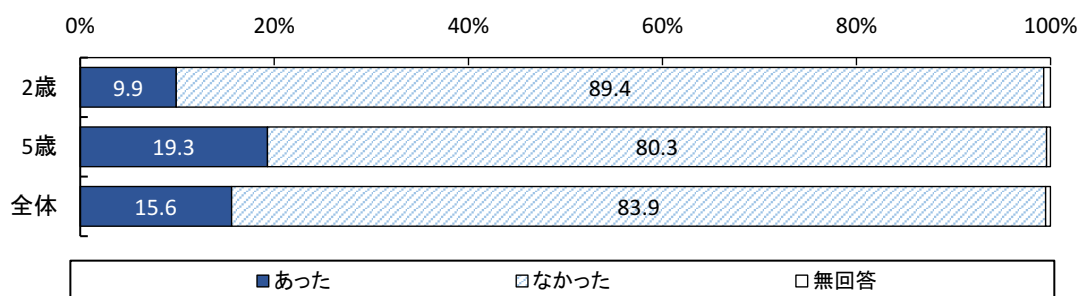


図 5-4

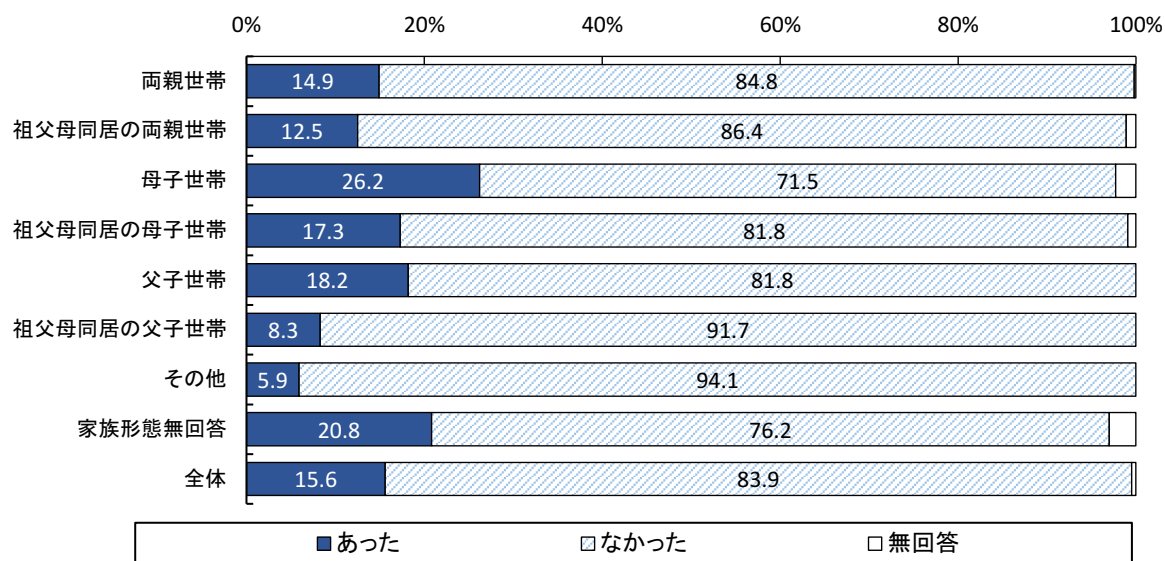


図 5-5

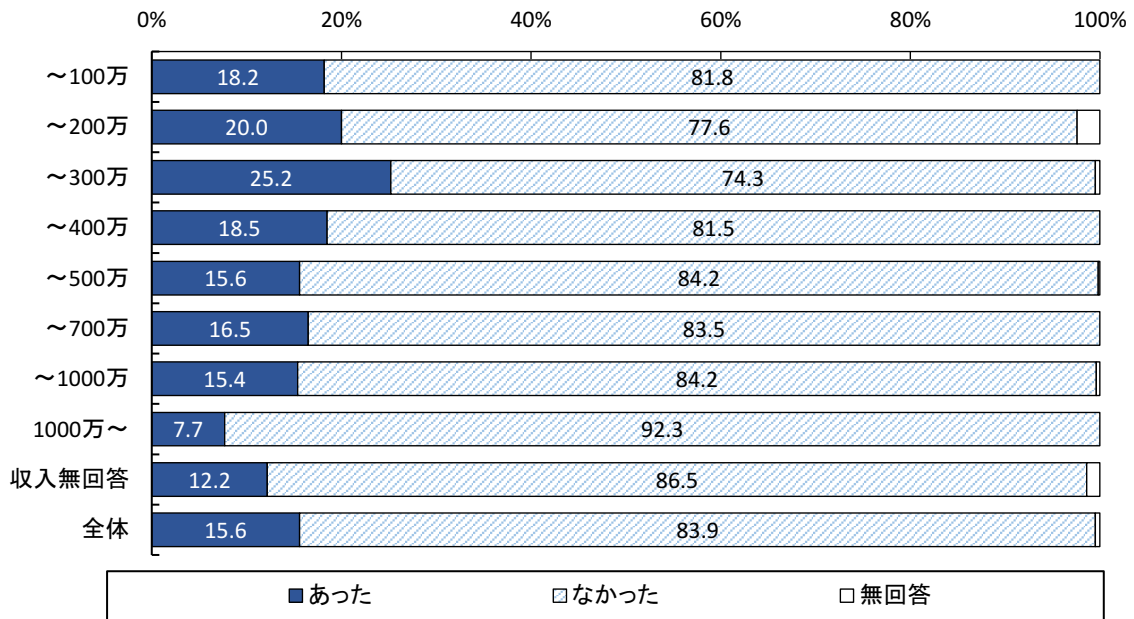
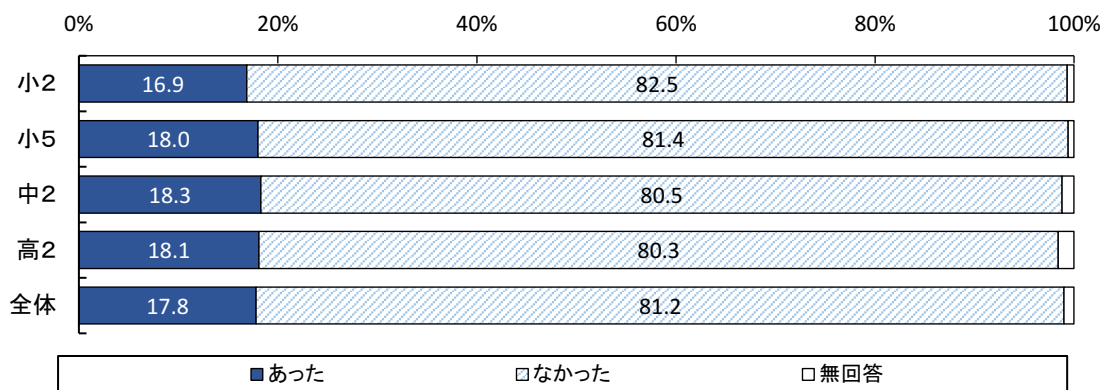


図 5-6 【参考】子どもの生活実態調査（小2～高2）結果



② 子どもを受診させなかった理由

- 「仕事で連れて行く時間がなかった」が2歳児で36.3%、5歳児で62.0%、「他の子どもの世話で連れて行く時間がなかった」が2歳児で29.5%、5歳児で21.2%あり、「お金がなかった」とする割合は2歳児で15.1%、5歳児で19.8%。
- 母子世帯において「仕事で連れて行く時間がなかった」が67.9%と両親世帯に比べ高い。
- 100～200万円未満において、「お金がなかった」と回答した割合が58.8%と高い。
- 子どもの生活実態調査（小2～高2）結果と比較すると、全体では「仕事で連れていく時間がなかった」は同程度となっていますが、「お金がなかった」は乳幼児が7.8ポイント低くなっている。

図 5-7

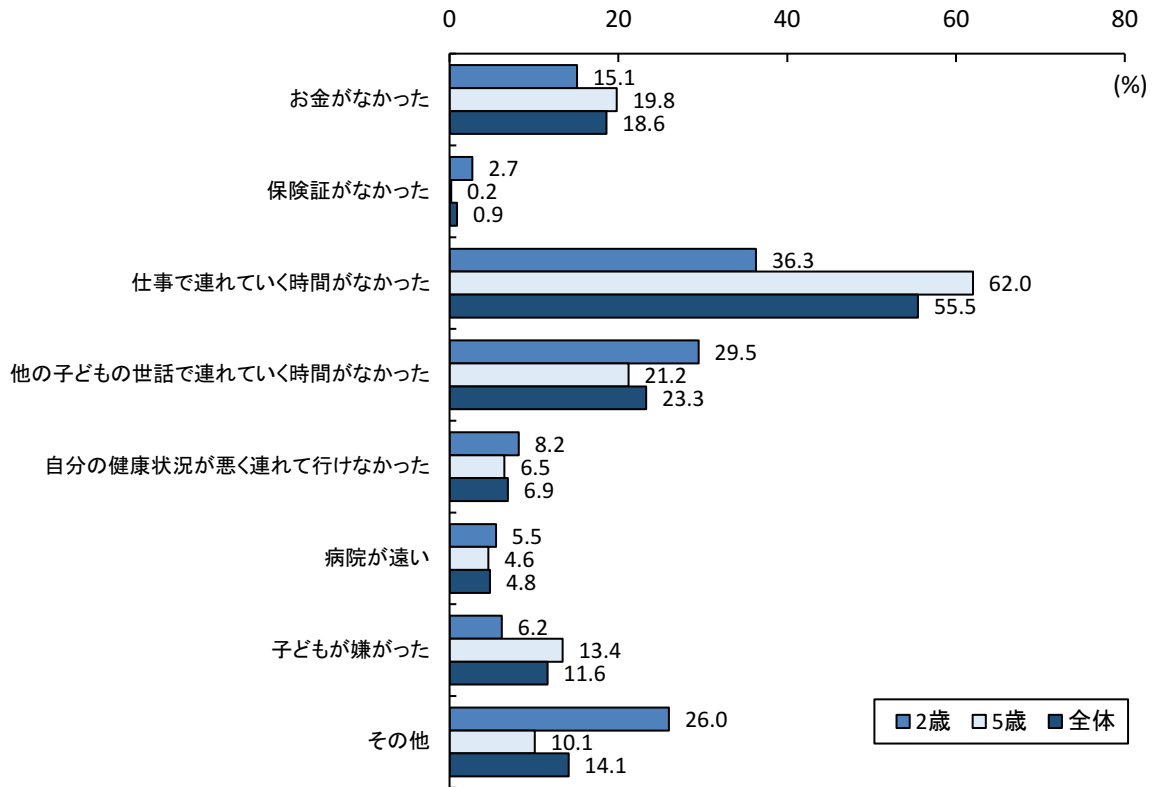
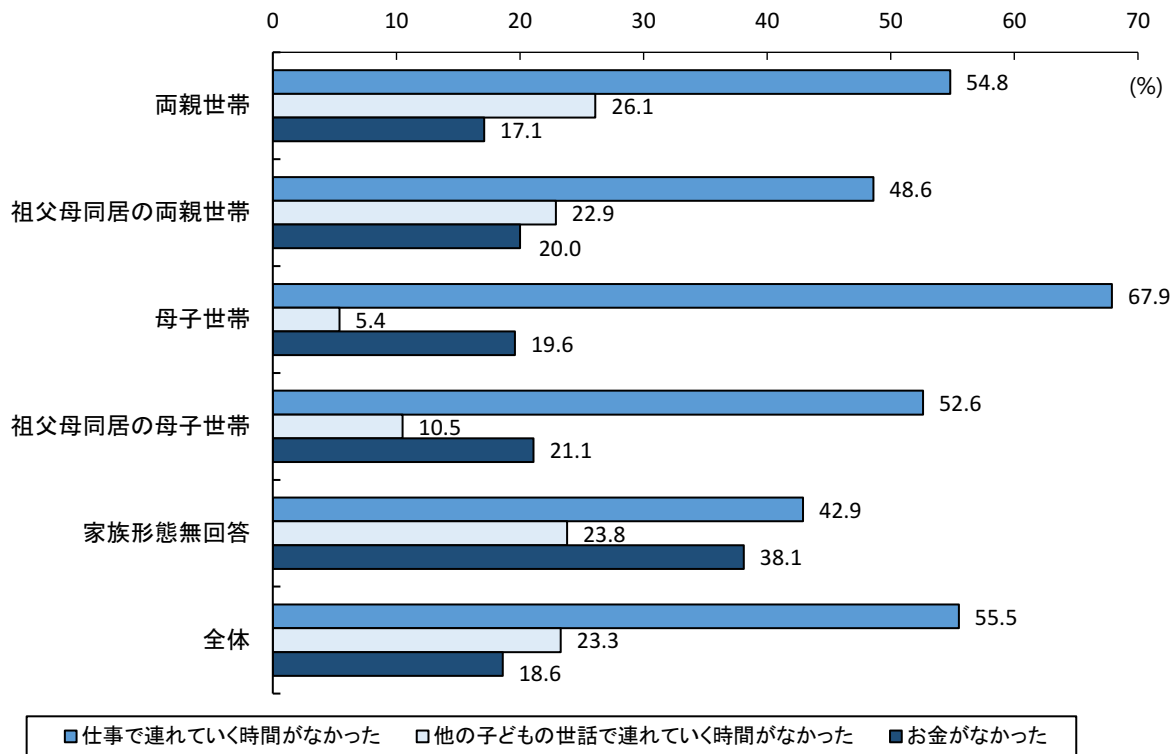


図 5-8



## 6 相談の状況

### (1) 子どもの栄養や成長等の悩み等

#### ① 相談する相手

- 悩みや心配を相談する相手については、全体では「同居の親族」60.6%、次いで「同居していない家族・親せき」56.9%、「友人・知人」38.8%、「保育園や幼稚園等の先生」36.7%。
- 特に5歳児では「保育園や幼稚園等の先生」が45.2%と、家族や親せき以外で最も高い。
- 両親世帯で63.9%が「同居の家族」、次いで58.7%が「同居していない家族・親せき」と回答し、母子世帯では61.6%が「同居していない家族・親せき」と回答。

図 6-1

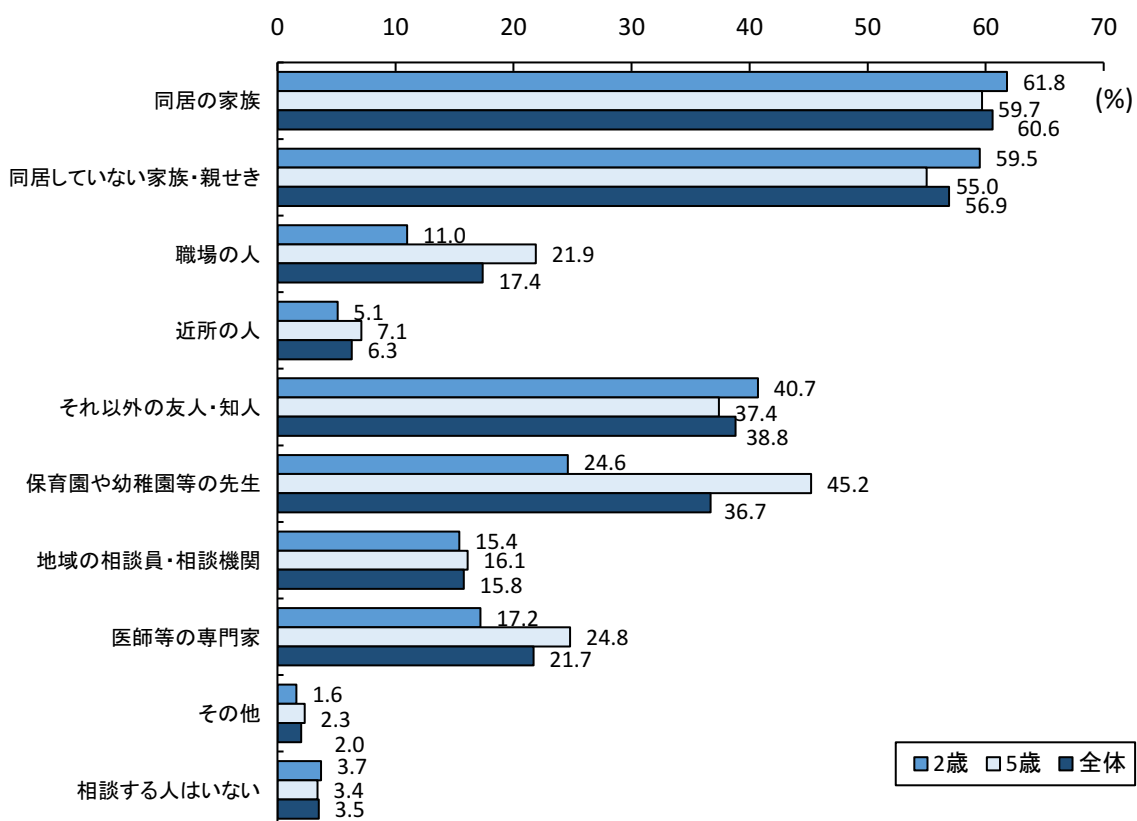
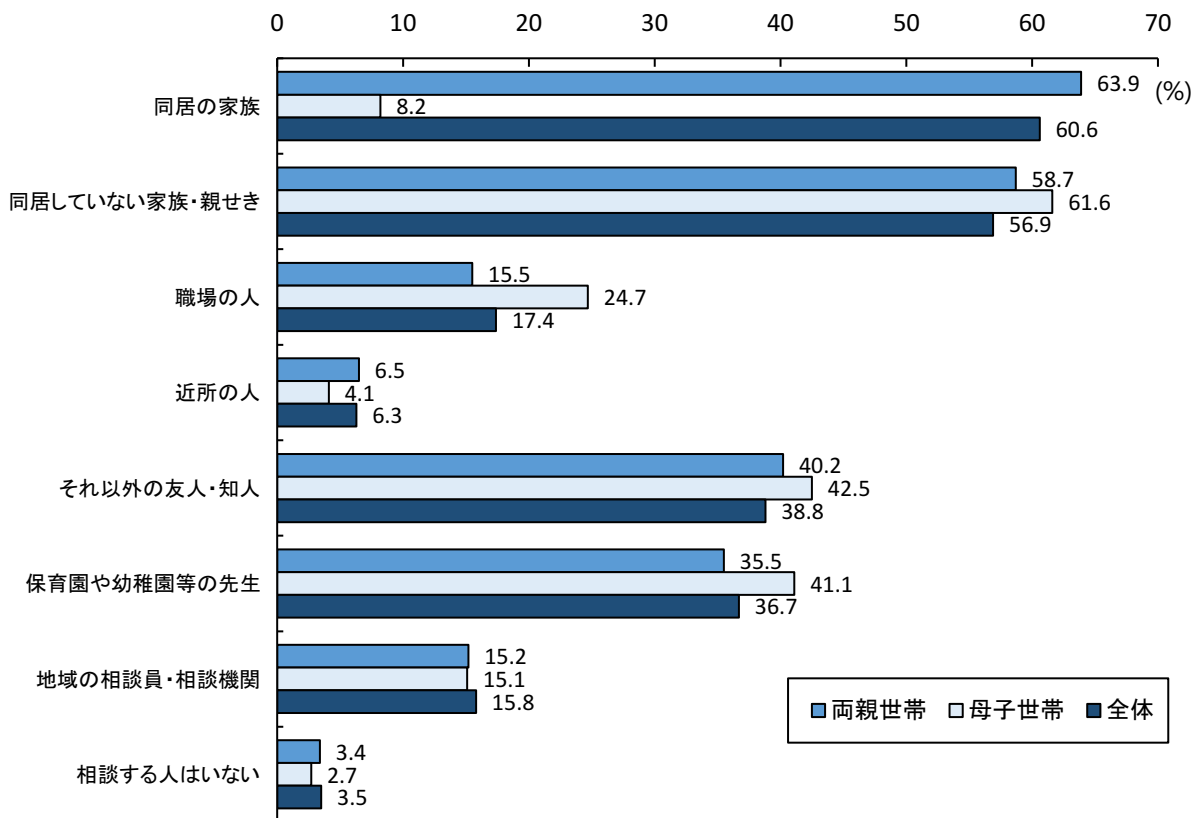




図 6-2



② 子育てや生活の事で相談の経験

- 全体では、保健師に「相談したことがある、相談している」とする割合が 30.9%となっているほかは、全ての機関や相談員で6%未満となっている。
- 母子世帯や父子世帯で「相談先や方法を知らなかった」と回答する割合が高い傾向。

図 6-3

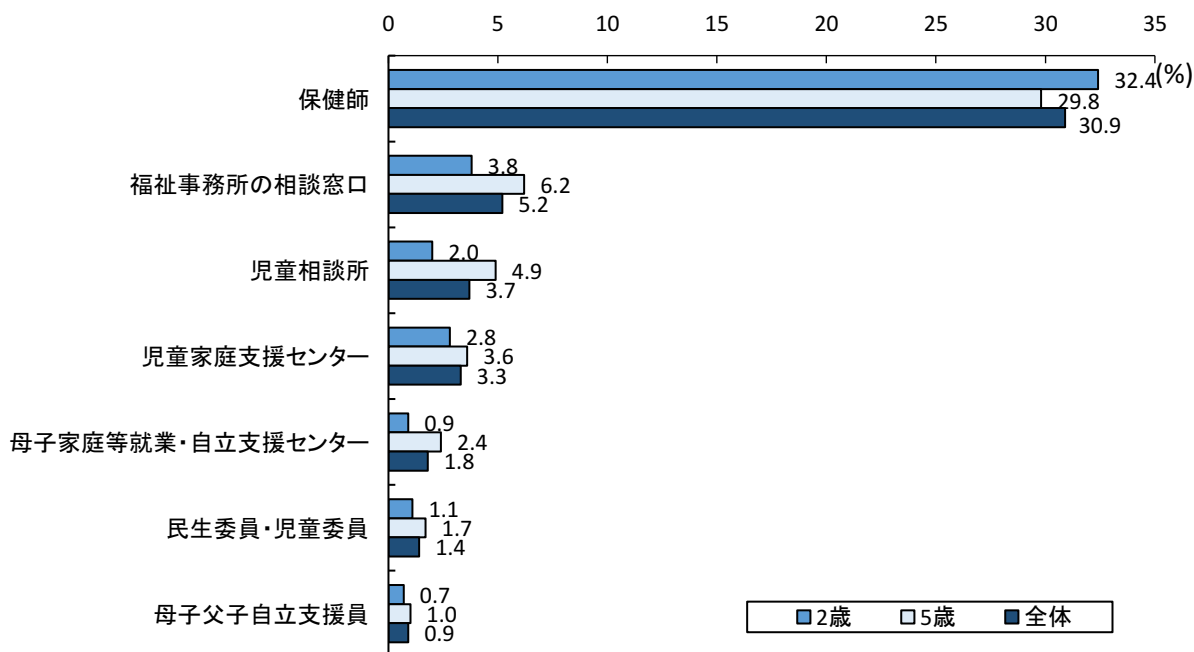


図 6-4 相談先や方法をしらなかった 家族形態別

